公益財団法人
ケア・インターナショナルジャパン

2017年度 年次報告書

（2016年7月～2017年6月）

変える、女性も女子も活躍する豊かな世界に

支援者の皆様へ

ご挨拶　理事長 目賀田周一郎

戦後の復興期に8年間にわたり1,000万人の日本人が米国やブラジルから「CAREパッケージ」という形での生活物資の支援を受けました。その恩返しとして、経済成長を遂げた日本が援助する側に立つべきだとの理念で当財団は1987年に発足し、グローバルなネットワークに発展したケア・インターナショナルのメンバーとして参加しました。今年設立30周年を迎え、この間、ケア・インターナショナルの共通の理念と国際的な連帯の下に、貧困のないより良い社会の実現を目指して開発途上国支援に取り組んで参りました。

本年度は、ガーナでの女性の活躍を通じた乳幼児栄養改善事業、東ティモールでの教育支援活動と貧困農村の自立支援事業に加え、新たにタイでも女子を含めた人材育成のための新しいプロジェクトを立ち上げました。持続可能な開発のアジェンダの一環としても女性と女子の地位の向上に重点をおき、支援者のお気持ちが現地の人々に伝わるよう、心の通った支援活動を心がけております。

本年1月には新たな事務局長を迎え、また、役員には豊富な経験や高い専門性を有する方々に加わっていただきました。さらに、新たな支援組織としてケア・サポーターズクラブ佐賀が発足し、法人会員の数も増え、活動基盤が拡充されつつあります。

世界情勢が混沌とする中、市民レベルの連帯は益々重要であると思います。グローバルな視野からの身近な協力が集まれば、国際的な連帯の輪の中で大きな成果につながっていきます。このような志を共有していただける一人でも多くの皆さまや、私共の理念・目標を共有いただける多くの企業にはその社会貢献の一環として、この連帯と協力の輪に是非参加していただければと存じます。引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

2017年度事業報告

開発支援事業

継続事業	**東ティモール** 学習雑誌『ラファエック』を通じた農村地域の自立支援事業	P4
継続事業	**東ティモール** 農村地域の生計向上事業	P5
継続事業	**ガーナ** 乳幼児の栄養改善事業	P6
新規事業	**タイ** 理数系（STEM）教育を通じたリーダーシップ育成事業	P7

A WORLD OF CARE

COUNTRIES IN WHICH CARE WORKED IN FY16:

1. Afghanistan
2. Albania¥
3. Armenia¥
4. Azerbaijan¥
5. Bangladesh
6. Benin
7. Bolivia
8. Bosnia and Herzegovina
9. Brazil
10. Burkina Faso¥
11. Burundi
12. Cambodia
13. Cameroon
14. Central African Republic¥
15. Chad
16. Côte d'Ivoire
17. Croatia¥
18. Cuba
19. Democratic Rep. of the Congo
20. Dominican Republic
21. Ecuador
22. Egypt
23. Ethiopia
24. Fiji¥
25. Georgia
26. Ghana
27. Guatemala
28. Guinea¥
29. Haiti
30. Honduras
31. India*
32. Indonesia
33. Iraq¥
34. Jordan
35. Kenya
36. Kosovo
37. Laos
38. Lebanon
39. Lesotho
40. Liberia¥
41. Madagascar
42. Malawi
43. Mali
44. Mexico¥
45. Montenegro¥
46. Morocco
47. Mozambique
48. Myanmar
49. Nepal
50. Nicaragua
51. Niger
52. Pakistan
53. Panama
54. Papua New Guinea
55. Peru*
56. Philippines
57. Romania¥
58. Rwanda
59. Serbia
60. Sierra Leone
61. Somalia
62. South Africa
63. South Sudan
64. Sri Lanka
65. Sudan
66. Syria
67. Tanzania
68. Thailand*
69. Timor-Leste
70. Togo¥
71. Turkey
72. Uganda
73. Vanuatu
74. Vietnam
75. West Bank & Gaza
76. Yemen
77. Zambia
78. Zimbabwe

年度総括　事務局長 池田卓生

2017年初めより武田前事務局長の後任として、CAREにご縁をいただきました池田卓生です。CAREの歴史と使命に大いなる共感を持ち、今後皆さま方が人を想う気持ちの架け橋として、国際協力活動に邁進して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2017年度は「中期戦略計画2017」の最終年次となり、多くの基本戦略を順調に進めることができた一方、自己資金能力向上は反転の兆しが見え始めたばかりです。

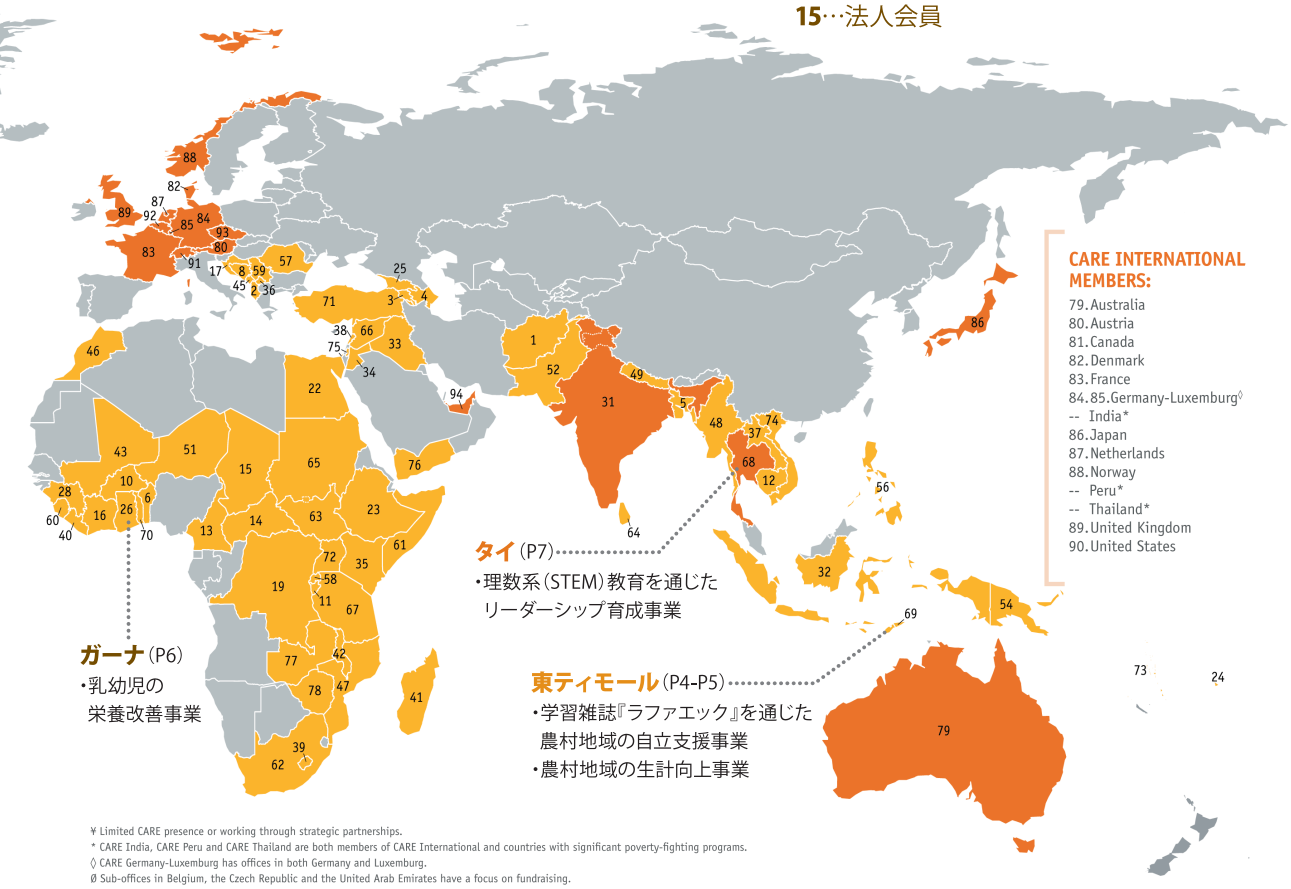
国際協力事業については、新規の「理数系教育を通じたリーダーシップ育成事業」を含む4件の開発支援事業を、タイ、ガーナおよび東ティモールで実施し、また熊本における緊急復興支援を2016年8月に終了いたしました。

啓発普及事業については、例年通り、つながる国際協力「CAREスマイルギフトキャンペーン」と歩く国際協力「Walk in Her Shoes」を実施し、特に後者に関しては、参加費の一部をガーナ事業への寄付に特定、また地元に根差した関連イベントを実施するなど新しい試みを取り入れ、参加者の皆さまのご好評をいただきました。

我々の課題はCAREの活動や認知度を地道に高めていくことです。それによって世界の現状と諸々の問題解決への意識・行動の輪を広げていくことにあります。2015年に国連で採択された持続可能な開発のための目標（SDGs）のように、世代を超えた地球規模の課題の前で、属性・国籍・思想を越えたcare（思いやり）の気持ちが集う場であり続けたいと願います。引き続き皆さまのご支援とご協力を仰ぎたく、ここに謹んでご挨拶申し上げます。

Contents

02…ご挨拶と年度総括
03…A World of CARE（世界地図で見る事業地）2017年度 事業報告
08…数字で見るCARE（ケア・インターナショナル）の1年
09…数字で見るケア・インターナショナル ジャパン国内活動の1年
10…CARE支援組織 活動報告
11…CARE支援の輪
12…2017年度 会計報告
14…役員・顧問・評議員
15…法人会員



CARE INTERNATIONAL MEMBERS:
79. Australia
80. Austria
81. Canada
82. Denmark
83. France
84.85. Germany-Luxemburg◊
-- India*
86. Japan
87. Netherlands
88. Norway
-- Peru*
-- Thailand*
89. United Kingdom
90. United States

CARE INTERNATIONAL SECRETARIAT:
91. Geneva, Switzerland^
92. Brussels, Belgium^
-- New York, United States^

SUB-OFFICES:
-- Belgium∅ (of CARE France)
93. Czech Republic∅ (of CARE Austria)
94. United Arab Emirates∅ (of CARE USA)

¥ Limited CARE presence or working through strategic partnerships.
* CARE India, CARE Peru and CARE Thailand are both members of CARE International and countries with significant poverty-fighting programs.
◊ CARE Germany-Luxemburg has offices in both Germany and Luxemburg.
∅ Sub-offices in Belgium, the Czech Republic and the United Arab Emirates have a focus on fundraising.
^ CI Secretariat offices in Switzerland, Belgium and the United States are critical for CARE's advocacy roles, as well as for other important functions.

継続事業 **東ティモール**

学習雑誌『ラファエック』を通じた農村地域の自立支援事業

― アジアで一番新しい国の農村部の人たちに生きるチカラを届ける ―

活動地域：東ティモール全13県
事業期間：2014年6月～2019年6月（5年間）
事業規模：当年度支出額2,154千円（総事業予算：年間約1億円＊他ドナー資金を含む）
主な支援者：支援組織、個人、企業

320,000 世帯
成人向け「ラファエック」を受け取った世帯数

460,000 人
未就学・低学年児童向け「ラファエック」を受け取った児童数

36,000 人
教員向け授業法・指導法「ラファエック」を受け取った小学校教師の数

課題

アジアで一番新しい国である東ティモールは、国民の約4割が1日1.25ドル以下で暮らすアジア最貧国の一つ。貧困層の85%は農村部に暮らし、昨今、農村部と都市部との経済・教育格差が顕著となっています。教育言語であるポルトガル語の成人識字率は都市部で約40%である一方、農村部では約18%と圧倒的に低く、地域格差が生まれています。農村部では十分な識字能力や計算能力を身に付けることができないため、経済活動や家計の管理に支障をきたし、親の識字能力の低さが子どもの栄養・健康状態、そして就学率にも悪影響となって現れています。

活動内容

本事業では、2015年より対象地域を拡大し、全13県に配布を行っており、3年目にあたる本年は、従来からの成人向け、未就学・低学年向け、教員向けの3種をそれぞれ4回ずつ配布しました。特に、本年は、東ティモール政府が取り組むエルニーニョ対策を成人向け「ラファエック」の内容に取り入れました。政府と協力して、エルニーニョの被害を最小限に止めるべく、折込や見開きページ等で、エルニーニョに関する情報を住民に提供し、適切な情報の拡散に取り組みました。また、活動の継続性を高める試みとして、営利、非営利の団体が雑誌制作費の一部を負担することで、コンテンツを共同で制作できる「スポンサー制」を推進し、寄付金や助成金に限らない活動資金源の多様化に取り組みました。

支援者の声

青山学院高等部 藤本晃裕先生

識字率を上げるという目的は同じであっても、外部から与えられるのと、東ティモールのスタッフが自分たちの国の未来を描きながらつくっていくのでは、大きく異なります。ラファエックの制作現場も見学させていただきましたが、現地のスタッフたちが一所懸命に作業する部屋で制作されるラファエックには、東ティモールの誇りと、希望が詰まっているように感じました。帰りの道中、大切そうにラファエックを持って歩く子どもたちとすれ違いました。笑顔で手を振り返してくれる子どもたちを見ながら、一歩ずつ東ティモールは自分たちの未来に向かって前進していることを実感しました。

継続事業 **東ティモール**

農村地域の生計向上事業

― 持続的で多様な生きる手段の構築と女性のエンパワメントを目指して ―

活動地域：エルメラ県アッサベ郡の4村内22集落村
事業期間：2016年2月～2019年3月（3年間1ケ月）
事業規模：当年度支出額25,718千円（総事業予算：約90,000千円）
主な支援者：外務省、支援組織、個人

14 グループ
組織化された農民グループの数

266 人
農民グループのメンバーの数
（女性188名、男性78名）

5 種類
農民グループが耕作している
穀物や野菜の数

課題

活動地のエルメラ県アッサベ郡は、貧困に苦しむ農村地域で、人々の暮らしはコーヒー生産とその収入に過度に依存しています。一方で、気候変動に伴う災害の多発により、その生産高は安定していません。このような脆弱な生活基盤に加え、農作業や家畜の世話、市場での農産物の売買等において、女性が重要な役割を担っているにもかかわらず、生活に関わる意思決定の場への女性の参加が十分に確保されていません。その結果、地域の貧困が助長されています。

活動内容

2017年3月から2年目に入った本事業では、成果発現に向けた下地作りを進めることができました。具体的には、1）農民グループの組織化とグループ・メンバーへの農業技術指導、2）農産物の質向上および収穫量向上を目指した農業省承認の種子の導入、3）農民と市場との繋がりを強化するためのプライベートセクターとの協議、4）ジェンダー平等の促進を行いました。特に、2）の活動では、農民グループが気候変動に強い土地づくりを身に着けることに焦点をおきました。課題としては、天候不順と選挙による活動の遅延があげられます。今後もこれらの要因が影響を与えることが予想されるため、適宜、活動スケジュールを変更するなどの柔軟な対応を行っていきます。

受益者の声

マリア・ゴメスさん（39歳） 農民グループのリーダー

気候変動のワークショップでは、地すべりが発生する場所を特定し、リスクや資源のある場所を示す地図をグループで作りました。その過程で、自分たちが住んでいる地域の状況についてよく知ることができました。その他、印象深いのは、ジェンダー平等研修です。この研修では、男女の家事の分担について話し合い、男女の役割に関する偏見について学びました。私たちは文化的に、男女の仕事を分ける習慣があります。夫は家畜の世話などの力仕事をし、私は料理や子どもの世話をします。この研修に出てよかったことは、私が外出して活動に参加することを夫が認めてくれたことと、家事の分担がよりうまくできるようになったことです。

継続事業 **ガーナ**

乳幼児の栄養改善事業

― 赤ちゃんの栄養改善を目指して、貧困層の女性たちが起業家として活躍 ―

活動地域：北部州イースト・マンプルーシー郡
事業期間：2016年2月～2019年2月（3年間）
事業規模：当年度支出額38,146千円（総事業予算：約140,000千円）
主な支援者：外務省、味の素ファンデーション

4,370人 対象地域の2歳未満児の数

118組合 新たに設立された村内貯蓄貸付組合*の数

*20～25人の女性からなる組織で、各人が少額の現金を預けグループで管理する仕組み。女性たちは、グループで管理する資金から融資を受けることにより、農作物の加工・販売、塩などの小分け販売等、各々のビジネスを起業することが可能になります。自分たちの村や近隣の村の住民がビジネスの顧客となります。

137人 村内貯蓄貸付組合から選出された女性起業家の数

課題

北部州イースト・マンプルーシー郡は、経済成長が著しいガーナにおいては、極度の貧困状態が残る地域です。ガーナの貧困層のおよそ40%の人々が北部で暮らし、とりわけ、北部州の5歳以下の子どもの栄養状態は悪く、33%が発育阻害（低身長）、20%が低体重、82%が貧血とされており、この地域の貧困と連動しているといわれています。子どもの栄養状態の改善は、将来的な貧困の予防の点からも喫緊の課題となっています。

活動内容

2017年2月から2年目に入った本事業では、成果発現に向けた下地作りを進めることができました。具体的には、1）栄養啓発活動を行う上での基盤となり、また女性の収入創出にも繋がる村内貯蓄貸付組合の設立と運営研修、2）同組合からの栄養補助サプリメント「KOKO plus」の需要創出・販売促進活動を担う女性起業家の選定と研修、3）栄養啓発メッセージの普及を目的とした演劇グループの設立を行いました。特に、演劇グループのメンバーについては、男女比を半々にすることで、女性だけでなく男性にも乳幼児の栄養と健康についての意識付けを図り、男性の参加を積極的に進めています。今後は、設立した村内貯蓄貸付組合が、本事業終了後も、継続して活動ができるよう運営の強化と組合員の意識付けの強化を図っていきます。

受益者の声

ラビ・イッサさん（推定45歳）
村内貯蓄貸付組合のメンバー

ラビさんは、遠方のマーケットから仕入れたトウモロコシ、トマト、乾燥パスタ、塩、スパイスなどを村内で小分けにして売り、貯蓄グループ内で最高額の利息収入を得ました。これにより、「子どもに使うお金を夫に頼む必要がなくなった」と喜んでいます。ラビさんが住む地域では、子は父親に属していますが、母親が教育費や食費を負担することが多いからです。今回、初めて貯蓄グループに参加したラビさんは、「まだ参加していない人にも大変ためになると伝えたいです」と語ってくれました。

開発支援事業▶終了事業

上記事業の先行事業として実施した「ソーシャルビジネス事業」は、2016年12月をもって終了しました。

2016年4月以降12月まで、986名の村の関係者と出口戦略会議を定期的に持ち、村の各ボランティアによって栄養啓発活動を自主的に継続していくことなどで合意しました。また、2歳未満児の保護者、特に男性保護者に対して「KOKO plus」の継続的な購買が推奨され、現在、男性啓発員がセールスレディに同伴して「KOKO plus」の販売活動を行っています。

新規事業 タイ 理数系(STEM*)教育を通じたリーダーシップ育成事業

― 企業と連携して社会性と自律性の高い人材を育成する ―

活動地域：アユタヤ県およびラヨーン県
事業期間：2017年4月～2020年3月（3年間）
事業規模：当年度支出額7,375千円（総事業予算：30,000千円）
主な支援者：日産自動車

*「STEM（ステム）」とは、Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Mathematics（数学）の頭文字をとった言葉。

課題

中所得国であるタイでは、特に都市部において、高校や大学など高等教育へ進む子どもたちが増え、学校内外での受験偏重教育が進んでいます。一方で、地方や農村部においては、最低限の学力を身に着けることのみが優先され、子どもたちは、社会や人との関わりの中で生きていく力やリーダーシップ、また職業的な技能を学習する機会に恵まれていません。タイ国内における貧富の格差が益々拡大する中、特に、貧困に苦しむ地域の子どもたち（特に女子）は、自らの可能性を十分に発揮できず、社会の中で取り残されています。

活動内容

本年度は、対象となる学校の選定を終えました。今後は、1）貧困地域の中学・高校生を対象に、（ジェンダー研修やチームビルディングを含む）リーダーシップ研修をはじめ、理数系教育の強化、キャリア教育（職業についての基本的な知識と技能の習得）、小規模ビジネス起業研修などを実施します。また、一定の資金を元手に、実際に起業体験と事後評価を行い、実践の中から相互の学びを深めます。2）教員を対象にオリエンテーションを行い、教師の参加・協力のもと、上記1）の活動を推進し、3）特に、キャリア教育や職業訓練などのプログラム実施においては、地域住民ほか、地元政府機関、民間企業などとも連携していきます。

8 校
対象となる中・高等学校の数

1,200 人
対象となる
中学・高校生の数

80 人
オリエンテーションを受ける
教員の数

支援者の声

日産自動車株式会社 CSR部課長 秋山 忠之様

CAREさんと日産自動車の協働は、2004年に発生したスマトラ島沖地震の被災地支援から始まりました。以来、法人会員としてお付き合いが続いてきましたが、この度、タイで新たなプロジェクトを開始できることになりました。STEMを切り口とした若者向けの教育プログラムは、日産にとって新しい取り組みですが、国際協力の専門家であるCAREさんの知見をお借りして、大きな成果を出せると期待しています。私どもが社会貢献活動においてNGOとパートナーシップを結ぶ際には、「自らが大切にする価値観を共有できるか」という点を重視します。女性や女子のエンパワメントで確かな実績を積み上げてこられたCAREさんは、ダイバーシティを重視する日産にとって大変頼りになる存在です。

「ケア・サポーターズクラブ熊本」との協働で実施した「熊本地震被災者支援事業」は、2016年8月をもって終了しました。

熊本市内、益城町、南阿蘇村、嘉島町における高齢者施設、暴力被害を受けている女性のためのシェルター運営団体、病児保育団体、情緒障害児施設、成人の知的障害者施設等、計8つの施設・団体への喫緊かつ必要な資機材の提供を行いました。

数字で見る ケア・インターナショナルの1年

80 支援国の数（国）

962 実施プロジェクトの数（事業）

9,175 スタッフの数（人）

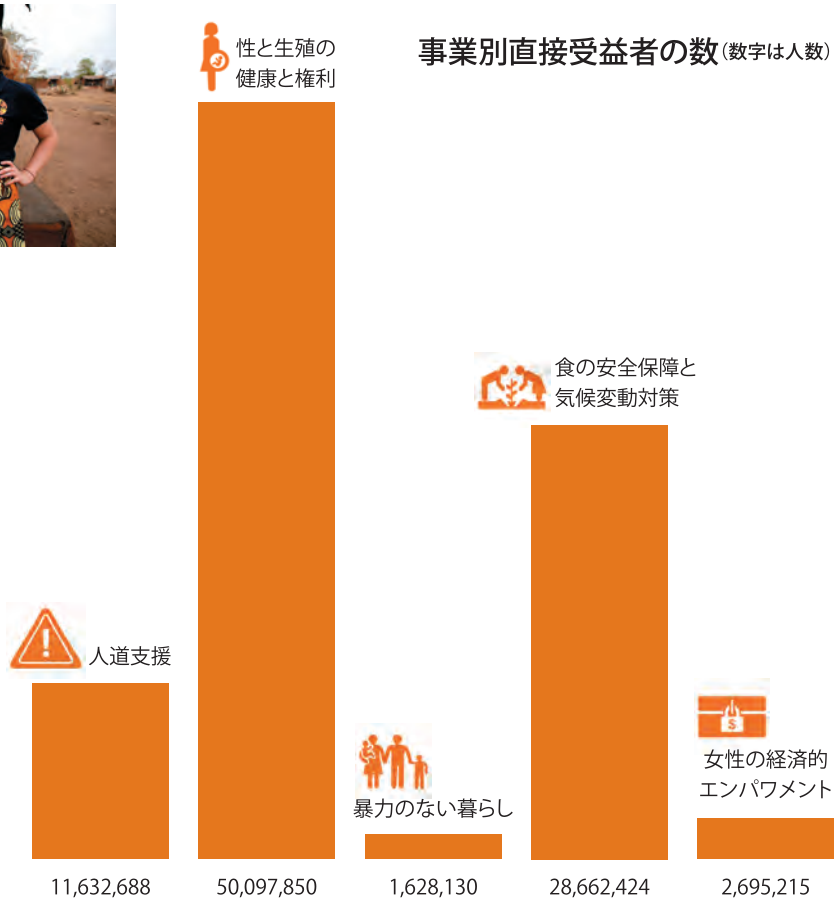
80,120,323 直接受益者数（人）

255,954,737 間接受益者数（人）

受益者の数トップ10（数字は人数）

1	インド	39,847,921
2	バングラデシュ	13,068,519
3	ケニア	1,870,808
4	ザンビア	1,682,181
5	エチオピア	1,603,857
6	マラウイ	1,562,597
7	マリ	1,467,426
8	スーダン	1,404,052
9	イエメン	1,323,801
10	シリア	1,267,300

事業別直接受益者の数（数字は人数）



数字で見る ケア・インターナショナル ジャパン国内活動の一年

当財団の職員数
（海外駐在員を含む）
11人

当財団ホームページへの
アクセスページ数
309,547ページビュー（PV）

イベント参加者数 / 回数
（当財団およびファンドレイジング・ボランティア等主催）
570人／20回

「あつめて国際協力」への
支援総額（法人・団体・個人）
796,156円

CARE マンスリー・ギビング・
プログラム参加者数
170人

facebook のファン数
3,463人

CARE 支援組織の会員数
638人／社

つながる国際協力「CARE スマイルギフト
キャンペーン 2016」参加者数
155人

新聞掲載
およびテレビ放映等の
合計報道実績件数
60件

物品・サービス提供による
支援の寄付相当額
1,639,874円

企業からの延べ寄付件数
82件

歩く国際協力「Walk in Her Shoes 2017」
参加者数
472人

個人会員数
83人

個人による
一年間の延べ寄付件数
3,128件

CARE 支援組織 活動紹介

全国から届いたレポートを紹介します

ケア・サポーターズクラブ 佐賀

2016年10月5日設立

ケア・インターナショナル ジャパンの名誉会長である、国際海洋法裁判所判事の柳井俊二氏をお招きして、「激動の東アジアと日本の平和」を題して、設立記念講演会を開催しました。これから貧困対策と女性支援を目的として活動していくために、国際情勢を理解することは大変意義深いことだと認識しました。

ケア・サポーターズクラブ佐賀設立記念講演会（2016年11月27日）

ケア・フレンズ 岡山

東儀秀樹講演会・バザー（2017年2月18日）

東儀秀樹氏による演奏とトークの会「雅楽の愉しみ」を開催しました。第一部では、丹色の狩衣と烏帽子姿で雅楽を笙で奏でられ、第二部では、黒のスーツ姿でモダンジャズなどを、時折ピアノ連弾を交えて、演奏されました。

ケア・フレンズ 東京

中村獅童講演会・バザー（2017年3月20日）

中村獅童様をお迎えし、「歌舞伎に生きる」という演題でご講演いただきました。歌舞伎に精進される姿勢やそのお人柄に感動しました。その後、「雨の五郎」を舞っていただき、舞台狭しと舞われる、その迫力あるお姿に益々魅了されました。

ケア・フレンズ 長野

チャリティーランチ会・バザー（2016年10月26日）

ピアニスト榊原大氏のミニコンサートを開催しました。力強いピアノタッチに酔いしれたひとときでした。バザーは10時～15時まで行い、大変好評でした。売上金20万円をケア・インターナショナル ジャパンに寄付しました。

ケア・サポーターズクラブ 大分

講演会「私を生きる」（2016年10月6日）

安倍昭恵総理夫人を講師としてお迎えしました。東京・神田にこだわりの食材を利用した居酒屋「UZU」やミャンマーの寺子屋支援などの活動について、また安倍総理の素顔や各国首脳らとの交流秘話など、ファーストレディーだけが知るエピソードを語っていただきました。

ケア・サポーターズクラブ 熊本

小山薫堂講演会・バザー（2016年10月16日）

熊本出身の小山薫堂氏をお招きし、「今こそ熊本に必要な『幸せの企画術』」と題して講演していただきました。パワーポイントを効果的に使いながらの講演は、企画着眼点など大変わかりやすく、高校生の参加者たちにも好評でした。

ケア・サポーターズクラブ 千葉

「ちば市国際ふれあいフェスティバル2017」出展（2017年2月12日）

会長が市の登録団体である日ロ協会会長でもあることから、毎年、千葉市国際交流協会主催の「ちば市国際ふれあいフェスティバル」に参加しています。今年も、市民団体ブースの一部を借りて、団体PRや会員が作った装飾品のバザーを行いました。

ファンドレイジング・ボランティア

2012年に開始した「ファンドレイジングチャレンジ！」。10ヵ月の間、ファンドレイジング（資金調達）のためのイベントの企画、準備、実施までをボランティアが主体となって行います。本年度は、9期目のチームが活動。チャリティークイズ大会、手作りチョコ教室など計7回のイベントを通じて、延べ150名の参加を得て、18万円を超える寄付金を集めて下さいました。

●9期メンバーの声

FRV9期のメンバーになり、様々なイベントを企画できたことで、濃厚な一年となりました。9期のメンバーを含め、CAREのスタッフさんや、イベントに参加していただいた全ての方との出会いが宝物となりました。

あつめて国際協力

使用済み切手や読まなくなった本などを集めて、換金し、国際協力活動につなげる取り組みを行っています。本年度は、当財団が拠点をおく東京・豊島区の店舗・企業を中心に切手やはがきの収集箱の設置をお願いするなど、地元企業との連携強化に注力しました。

●支援者の声

箱をおくだけで協力をできると思いました。こんな簡単なことで人助けができるなら、お役に立てるならと思い、収集箱を設置しました。2〜3日で使用済み切手が中に入っていて、興味を持ってくださった方がいたということが実感できてうれしかったです。

CARE支援の輪

様々な形で活動を支えて
下さっている方々を紹介します

3月8日「国際女性の日」

歩く国際協力「Walk in Her Shoes」

途上国の女性や女子が毎日水汲みなどのために歩く8,000歩を体験する「チャリティウォーク」。6年目を迎えた本年度は、東京に加えて、大阪・万博記念公園でもチャリティウォークを実施。関西学院大学の皆さんのご協力を得て、国際協力に関連したアクティビティを盛り込み、多様な世代が、身近な「水」という問題を通じて世界を考え、そして行動する1日となりました。

●関西学院大学の学生の声

「途上国の現状を理解する」というと机上での学びや実際に現地に訪れて感じたりする生真面目なイメージがありましたが、イベントを通して、気軽に体感できたことで理解することへのハードルが下がりました。気軽に学ぶ機会はとても大切だと感じることができました。

9月8日「国際識字の日」

つながる国際協力「CAREスマイルギフトキャンペーン」

東ティモール独立10周年を記念して開始したキャンペーン。ご寄付でのご支援に加えて、イベントへの参加、東ティモールの民芸品やコーヒーの購入などの様々な機会を通じ、東ティモールとの「つながり」を感じていただけるよう工夫しました。5年目となる本年度は、学習雑誌「ラファエック」10,000冊を日本から届けることができました。

●青山学院高等部の高校生自主活動クラブ『BLUE PECO』のメンバーの声

東ティモールの人が誇りに思っているコーヒー栽培を続けていくためには買う人との対等な関係が必要。そのためには教育が必要なんだと感じました。

2017年度
会計報告

正味財産増減計算書（2016年7月1日～2017年6月30日）

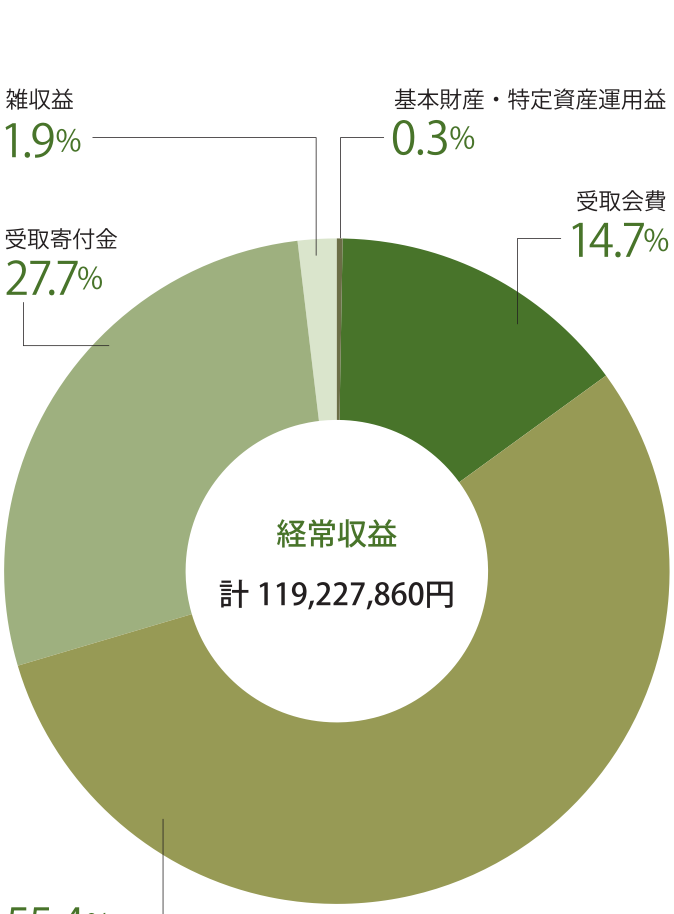
【単位：円】

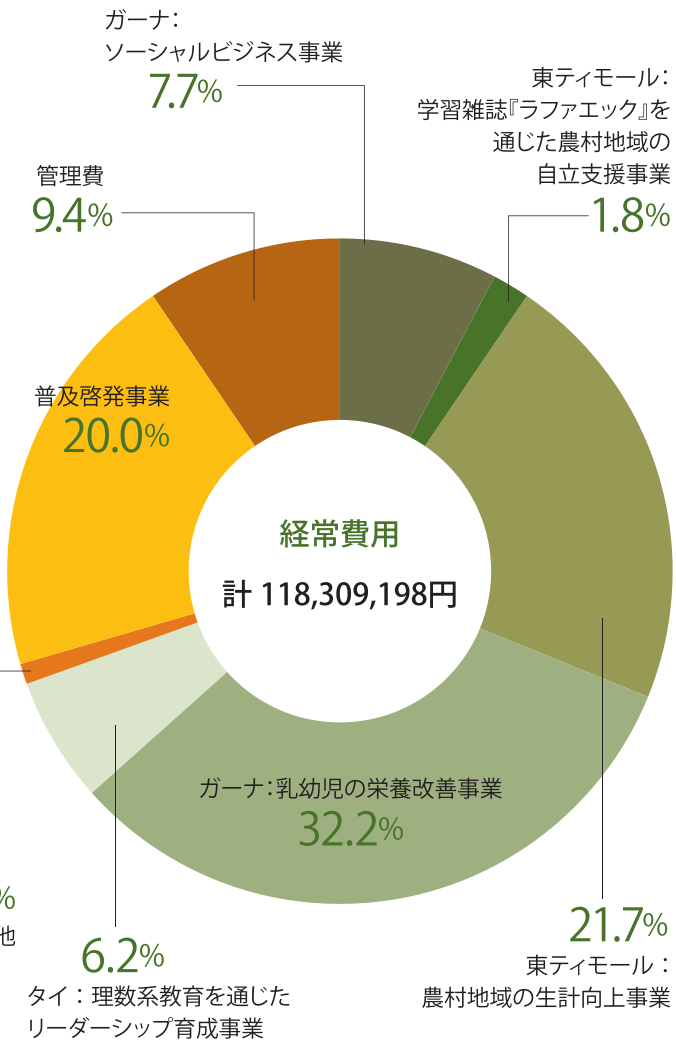
科　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1. 経常収益			
基本財産・特定資産運用益	373,750	1,250,000	△ 876,250
受取会費	17,556,000	17,438,803	117,197
事業収益	66,101,432	32,104,168	33,997,264
受取寄付金	32,975,010	37,217,235	△ 4,242,225
雑収益	2,221,668	3,536,142	△ 1,314,474
経常収益計	**119,227,860**	**91,546,348**	**27,681,512**
2. 経常費用			
国際協力事業費	83,601,657	59,266,535	24,335,122
マーケティング事業費	23,650,149	27,316,054	△ 3,665,905
管理費	11,057,392	14,767,300	△ 3,709,908
経常費用計	**118,309,198**	**101,349,889**	**16,959,309**
評価損益			
基本財産・特定資産評価損益等	△ 816,975	909,225	△ 1,726,200
投資有価証券評価損益等	16,807	201,691	△ 184,884
評価損益等計	△ 800,168	1,110,916	△ 1,911,084
当期経常増減額	**118,494**	**△ 8,692,625**	**8,811,119**
3. 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
4. 経常外費用			
固定資産除去損	0	2	△ 2
経常外費用計	0	2	△ 2
当期経常外増減額	0	△ 2	2
当期一般正味財産増減額	118,494	△ 8,692,627	8,811,121
一般正味財産期首残高	42,636,672	51,329,299	△ 8,692,627
一般正味財産期末残高	**42,755,166**	**42,636,672**	**118,494**
Ⅱ 指定正味財産増減の部			0
受取寄付金	25,447,581	15,687,712	9,759,869
一般正味財産への振替額	△ 16,337,140	△ 22,367,954	6,030,814
当期指定正味財産増減額	9,110,441	△ 6,680,242	15,790,683
指定正味財産期首残高	1,280,349	7,960,591	△ 6,680,242
指定正味財産期末残高	**10,390,790**	**1,280,349**	**9,110,441**
Ⅲ 正味財産期末残高	53,145,956	43,917,021	9,228,935

貸借対照表 2017年度（2017年6月30日現在）

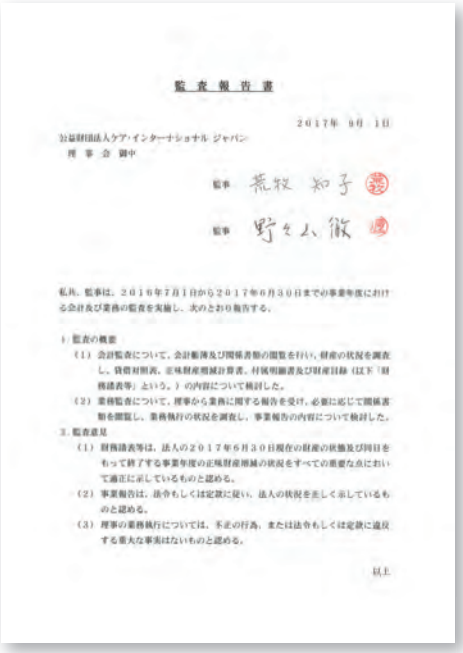
【単位：円】

科　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	39,172,929	27,637,234	11,535,695
前払事業費用	31,522,456	29,003,346	2,519,110
未収金	8,861,196	10,957,497	△ 2,096,301
貯蔵品	416,768	310,293	106,475
前払費用・前払金・その他	1,275,234	819,828	455,406
流動資産合計	81,248,583	68,728,198	12,520,385
2. 固定資産			
基本財産	28,401,775	29,218,750	△ 816,975
その他固定資産合計	6,992,402	8,883,425	△ 1,891,023
固定資産合計	35,394,177	38,102,175	△ 2,707,998
資産合計	**116,642,760**	**106,830,373**	**9,812,387**
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
前受事業収益	47,713,059	50,291,446	△ 2,578,387
未払金	14,057,139	10,886,185	3,170,954
前受会費	1,656,000	1,584,000	72,000
預り金	70,606	151,721	△ 81,115
流動負債合計	63,496,804	62,913,352	583,452
負債合計	**63,496,804**	**62,913,352**	**583,452**
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産	10,390,790	1,280,349	9,110,441
2. 一般正味財産	42,755,166	42,636,672	118,494
正味財産合計	53,145,956	43,917,021	9,228,935
負債及び正味財産合計	**116,642,760**	**106,830,373**	**9,812,387**





監査報告書



監 査 報 告 書

2017年 9月 1日

公益財団法人ケア・インターナショナル ジャパン
理 事 会 御中

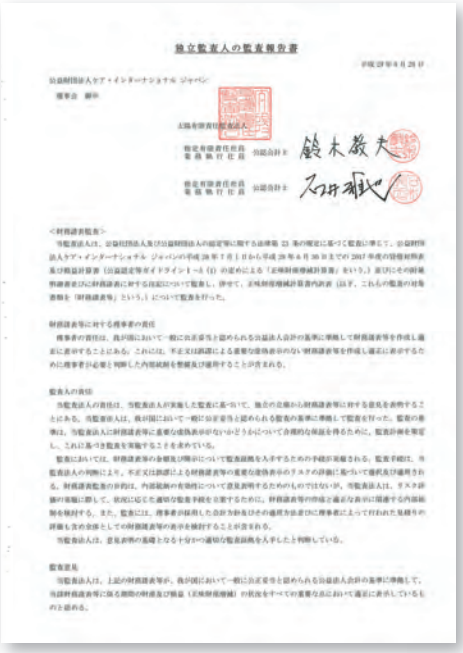
監事 荒牧 知子

監事 野々山 敏

私共、監事は、2016年7月1日から2017年6月30日までの事業年度における会計及び業務の監査を実施し、次のとおり報告する。

1. 監査の概要
（1）会計監査について、会計帳簿及び関係書類の閲覧を行い、財産の状況を調査し、貸借対照表、正味財産増減計算書、付属明細書及び財産目録（以下「財務諸表等」という。）の内容について検討した。
（2）業務監査について、理事から業務に関する報告を受け、必要に応じて関係書類を閲覧し、業務執行の状況を調査し、事業報告の内容について検討した。
2. 監査意見
（1）財務諸表等は、法人の2017年6月30日現在の財産の状態及び同日をもって終了する事業年度の正味財産増減の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認める。
（2）事業報告は、法令もしくは定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。
（3）理事の業務執行については、不正の行為、または法令もしくは定款に違反する重大な事実はないものと認める。

以上



独立監査人の監査報告書

公益財団法人ケア・インターナショナル ジャパン
理事会 御中

監査法人 鶴木敏夫

公認会計士 石井雅也

<財務諸表監査>
当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に基づき監査に準じて、公益財団法人ケア・インターナショナル ジャパンの平成 28 年 7 月 1 日から平成 29 年 6 月 30 日までの 2017 年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドライン 14（1）の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

財務諸表等に対する理事等の責任
理事等の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事等が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任
当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。
監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事等が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事等によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。
当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見
当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<財務諸表に対する意見>
当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に基づく監査に準じて、当該財団法人ケア・インターナショナル ジャパンの平成 28 年 6 月 30 日現在の 2017 年度の財産目録（「財産目録」及び「財務諸表等」の欄に掲げる、以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事等の責任
理事等の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監査人の責任
当監査法人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見
当監査法人は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係
公益財団法人ケア・インターナショナル ジャパンと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

謝 辞

日産自動車株式会社、ケア・フレンズ東京、カランマス・セジャトラ社、ケア・フレンズ岡山、ケア・フレンズ長野、ケア・サポーターズクラブ大分、セガサミーホールディグス株式会社、ケア・サポーターズクラブ熊本、ケア・パートナーズ金沢、吉村精仁氏他、
たくさんの個人・法人の皆さまからのご支援に対しまして、心より感謝申し上げます。

役員・顧問・評議員

（2017年6月30日現在）

名誉会長	柳井　俊二	国際海洋法裁判所 判事
顧問	稲川　素子	株式会社稲川素子事務所 代表
	山東　昭子	参議院議員、元科学技術庁長官、元参議院副議長
	日枝　久	株式会社フジテレビジョン 相談役
代表理事（理事長）	目賀田　周一郎	元メキシコ駐箚特命全権大使、中央大学法学部 教授
代表理事（副理事長）	黒川　千万喜	元公益社団法人トヨタ財団 常務理事
理事	岩動　達	株式会社ペンタインターナショナル 代表取締役
	岩田　喜美枝	公益財団法人21世紀職業財団 会長
	小島　明	公益社団法人日本経済研究センター 参与
監事	荒牧　知子	公認会計士・税理士 荒牧公認会計士事務所
	野々山　徹	元株式会社富士銀行 常務取締役
評議員	安倍　洋子	ケア・フレンズ東京 会長
	加藤　睦子	ケア・フレンズ岡山 名誉会長
	河野　洋子	カランマス・セジャトラ社 取締役
	小泉　淑子	シティユーワ法律事務所 弁護士
	近藤　茂夫	三菱重工業株式会社 総務法務部顧問
	紿田　英哉	アークヒルズクラブ 専務理事
	高橋　衛	ドイツ証券株式会社 コンサルタント、株式会社パレスホテル 顧問
	田中　皓	公益財団法人助成財団センター 専務理事
	山本　卓弘	社会福祉法人野菊寮（御殿場コロニー） 理事
	渡邊　美佐	株式会社渡辺プロダクション 名誉会長

法人会員

（2017年6月30日現在）

アサヒグループホールディングス株式会社
カランマス・セジャトラ社
株式会社サラダコスモ
株式会社サラスバ
神社本廳
新日鐵住金株式会社
セガサミーホールディングス株式会社
全日本空輸株式会社
大成建設株式会社
東レ株式会社
日産自動車株式会社
日本電信電話株式会社
株式会社日立製作所
株式会社ビデオエイペックス
株式会社フジテレビジョン
三井物産株式会社
三菱重工業株式会社
三菱商事株式会社
ミマスクリーンケア株式会社
株式会社ロッテ
株式会社 渡辺プロダクション
株式会社ヤマノビューティメイトグループ

Vision

ビジョン：

CARE は、貧困のない、すべての人々が尊厳をもって安心して暮らせる、希望に満ちた、寛容で公正な世界を目指します。

Mission

ミッション：

CARE は、人々の命を守り、貧困をなくし、公正な社会を創ることを使命とし、世界中でその実現に向けて取り組みます。

Focus

フォーカス：

CARE は、女性と女子を活動の中心にすえます。
貧困をなくすためには、女性と女子を含むすべての人々が平等な権利や機会を得る必要があるからです。

Our Work

ケア・インターナショナル　ジャパンの活動：

ケア・インターナショナル ジャパンは、世界 90 ヶ国以上で人道支援活動を行う国際 NGO ケア・インターナショナルの一員です。災害時の緊急・復興支援や「女性と女子」の自立支援を通して、貧困のない社会を目指しています。特に「女子教育」「女性の経済的エンパワメント」「母子保健」の分野に注力し、最も困難な状況にある人々の自立を支援しています。

長期ビジョン 2020：

私たちの目指す社会

1．「女性と女子」の自立支援を通じて貧困のない社会を目指します。特に、女子教育、生活向上、母子保健の3領域に注力します。

私たちらしい支援

2．最も弱い立場におかれた人々や支援の届きにくい地域の人々に、現地協力者との連携を大事にしながら、確実に支援を届けていきます。

3．緊急支援の能力を高め、国内外の自然災害に対し、より迅速かつ効果的に対応します。特に、東日本大震災での学びを今後に活かしていきます。

4．支援対象国の人々と日本の支援者をつなぐ役割を果たすことで、共に社会課題の解決に取り組む世界の実現に貢献します。

私たちの目指す組織と人財

5．組織や事業の透明性を高め、あらゆる説明責任を果たすことで、幅広く共感を得て支持される団体になります。

6．多様な人財と新しい価値観を尊重し、職員の成長と連帯を高めることで、長期ビジョン 2020 達成への一人ひとりの貢献度を高めます。

care®

ロゴについて：
互いにまっすぐ伸びていく手が形作る輪。
グローバルな視点で地球規模の問題に力を合わせて立ち向かう、CAREの活動の本質をイメージするものです。それは、一体であるだけでなく、多様性を認めるものでもあります。様々な環境に生きる世界中の人々が、共通の目標のもとに一つになったときに生み出される大きなチカラ。CAREのロゴにはこのような意味が込められています。

公益財団法人　ケア・インターナショナル　ジャパン

〒171-0031 東京都豊島区目白2-2-1　目白カルチャービル5階　TEL：03-5950-1335　FAX：03-5950-1375
Email：info@careintjp.org　http://www.careintjp.org

※本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを堅く禁じます。
この年次報告書のデザイン・レイアウトは、CAREのデザインボランティアの大橋久美様のご協力により、制作されています。
本報告書は、大盛印刷株式会社のご協力により、低価格でのカラー印刷が実現しました。
（2017年10月発行）